

内郷村報の  
 六大使命

### 内郷村報の 六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外各機關の活動状況を報導し、併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

# 内郷村報

發行日 一月一回  
 行發日 一月一回  
 行發日 一月一回

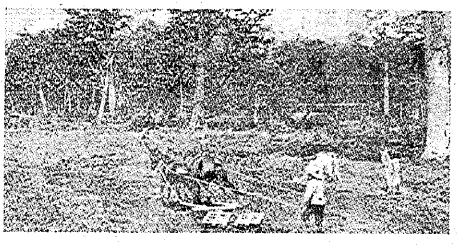
## 北海道概観

### 大内民惠

記者は本紙九月號「我等を歓迎する三大方面」の中に、それ／＼其境遇資格に應じて、南米滿洲北海道の三方面に、移住拓殖すべき事を提唱せられたのであつた。而して南米の視察は時日と旅費の關係から、暫らく之を延期し、滿洲視察には此年末に長男を派遣する事にしたので、記者は先づ再び北海道を視察する事に決し、西方一半は先年太視察の途次、其大休樺を見て居るので、此度は東方の一半を廻る方針を立て、先づ九月十三日東京を出発、北海道東京出張所を始め、關係方面を歴訪して、種々の準備を調べ、同十七日夜東京出發、十九日朝札幌着、同二十一日札幌出發、十勝、釧路、北見、天鹽、石狩の五國を一巡して、同二十八日札幌に歸着、十月一日迄滞在して、同二

日歸途に着き、途中大沼附の風光を賞したり、平泉の古跡を弔ふたりして、十月四日に歸宅したのであること、其概観を述べて見やうと思ふ。

北海道の面積は、五千七百五十万平方里と稱し、台灣樺太及四國を併せたるものに近く、今や昭和五年の明治十年の頃十九萬の人口は二百八十一萬に、七千町歩の耕地は八十三萬八千町歩に、三百二十七萬五千圓の生産總額は四億四千圓に達し、又其頃なかつた鐵道は一千七百餘哩の敷設を見るに到つた。之れ明治二十年開拓使設置以來、六十餘年、二億一千萬圓を投じ、幾度か開拓計畫を改訂して苦心經營したる結果で實に刮目に値する成績であるが、尙本道には八十萬町歩の農耕に適する未墾地を有し、優に三百萬の人口を



開墾實況

包容し得る餘裕を有するが故に、當局に於ては昭和二年を以て第二期拓殖計畫を確立し、今現に其道途にある次第で、豫算九億六千餘萬圓を計上し、本道に於ける一般會計の歳入超過額及道内事業に對する道外よりの收入を以て、之に充つる計畫を立て、爾來六年度迄に數千戸を移住せしめ、七年に於ては、一度に於ては、百二十戸を募り、集移住させる事になつて居る。

一、戸に對して、五町歩乃至十町歩の土地を貸付し（開拓すれば無償附與）七十圓乃至三百五十圓を補助し、全道に涉つて數ヶ所の農事試驗場並に種畜場を設けて、諸般の指導斡旋に當り、汽車汽船の割引、醫師産婆の配置、小學校神社寺院の設置等、あらゆる保護策を計り、又本年よりは拓殖實習場を新設して中堅人物養成の計畫を立てて居る。之を一瞥するに、真に到れり盡せりの感なき能はずである。

然るに引きつゞきたる財界の不況は、歳入の不足となり、逐年遞加すべかりし拓殖費豫算は、漸次遞減せざるを得ざる悲運を招き、かゝる加へて昨年の凶作、本年の大水害將た大凶作、全道農産額の約七割八分の被害をうけ、其金額實に七千六七百萬圓と稱せらるゝ慘狀を呈し、こゝ全道を擧げて、之が救濟方法と善後策とに狂奔せざるを得ざるに到れるとは、本道開拓史上一大受難時代ともいふべきである。東京のさる一流新聞などは「更生か没落か、開拓の危機」などと、頗る悲觀的觀察をして居るが、記者に言はすれば、何もさう悲觀するには及ばぬ事と思ふ。もとより凶作や水害は絶えず毎年あるものでもなく、凶作に對しては備荒の方策を講ずべく、水害に對しては治水の方法をめぐらす事とし、既往の狀勢經驗に鑑みて、拓殖方針の改訂を行ひ、銳意奮進すべきであると思ふ。要す

るに我北邊の寶庫を、徹底的に開拓する事は、本道として勿論、我國としても當然爲さざるべからざる仕事であり、急務であると思はれるのである。次に記者は記者が、親しく踏査したる移住民諸氏の生活の概況を紹介する事にする。一巡したる順序は前に述べた通りであつて、十勝國廣尾郡大樹村の四戸、釧路國川上郡弟子屈村の二戸、天鹽國上川郡下川村の二戸、同國同郡神居村の二戸、併せて十戸

十勝平原にて 民惠  
 十幾里眞直ぐなる道解林  
 朝風すがし自動車の上

（何れも畑地）に就きて調査したのであるが、内二戸には特に一夜の宿を乞ふて燕麥稻黍の御飯、麥麴の味噌汁、鹽煮の馬鈴薯甘藍南爪の副食等を満喫し、所謂居小屋の一隅にやすましてもらつて、其耕地を檢分すると共に、移住以來の体験や收支の狀態に至る迄、細大洩らさず聴取したのである、之等の人々は何れも、四國中國は勿論、全國各地より最近に（二三年以來）移住したるものであつて、内一人の大工であつた人を

（以下一面）



幸 した事を、眞に 福であつたと思つて居るとは、異口同音の答

### 教育制度改革概論

矢野恒太序 大内民惠著

行き詰る現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。味と未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威 京大教授小西重直博士 書を寄せて曰く、多年の御體験と實地ノ御試練ニ基キ眞摯憂國ノ大精神ヲ拜

發行所 日本評論社 東京九ノ内昭和田ビル 取次所 内郷村報社

## 時局匡救 土木事業費起債

本村に於ては、去る十四日臨時村會を開き、左の件を協議決定した。

一、時局匡救土木事業費起債の件。

起債金額一九〇〇〇圓、内一四三〇〇圓國庫補助四七〇〇圓村負擔、白水宮道路改修費八七〇〇圓白水川改修費一〇三〇〇圓充當。(三年据置十五ヶ年賦償還)

二、農業土木事業費起債の件。

起債金額八五四一圓、國庫及村に於て半額つゝ負擔、内御厩堰改修費三〇〇〇圓(村負擔半額)宮溜池新設費五五四一圓(大字宮負擔半額)充當。

凱旋兵士 滿洲に上海に死線を越えて奮戦したる本村出身の兵士諸氏中最近凱旋したる人々は左の通りである。こゝに心から感謝の意を表す。

## 救濟工事

既報の通り救濟救濟の目的を以て豫算五〇〇〇圓を計上して、八月二十日頃より着手したる第三小學校地上げ工事は、其後着々竣工に近づき、今日迄に二二四八圓余を支出し(材料費其他を除きて)其延人員三八八名に達し、男は一日六〇錢乃至八〇錢、女は同四〇錢の賃銀に當りたる由。

## 月賦販賣

磐炭販賣係では十二日から十八日迄六日間亘り従業員に對して吳服太物綿布類メリヤス毛布既製洋服、子供服其他冬仕度の月賦販賣六ヶ月以内を試みたが豫想外の人氣を呼び、宮俱樂部では十二、十三兩日で二千七百二十三圓十二錢、高坂集會所では十四、十五兩日で三千八百十三圓六十三錢綴俱樂部では十六、十七

## 我選手の殊勳

先月福島市に於て行はれたる縣下聯合青年体育會に出場せる石城郡選手の活躍は會てない成績だと傳へられてゐるが、左記我内郷青年諸君の殊勳に負ふものが多大である。

八〇〇米リレー、川又瀧口中井川西牧四君出場大會新記録一分三七秒二 一五〇〇米、小貫君二着 四〇〇米、大谷君三着 相撲、大河原君四勝一敗 第三小學校教員西牧君を除く六君が磐炭選手であることも注目し値する事である

## 野球大會

磐炭では去月十一日健康主催で各係素人野球大會を開催した。参加チーム十四A組決勝運輸2綴6で綴優勝、OB組(老人組)では町田9機電12で機電が優勝した。

## 山神遷座式

去月十八日午前九時より好間村吉田神官を招聘し、高坂勢務員列席の下に、高坂舊本坑坑口から坑外二坑に山神社遷座式を舉行した。三澤坑長初め小島都築瓜田岩崎諸氏及び役付其他關係者一同参列した。

## 水泳大會

磐炭では去月十八日正午より、各坑對競泳大會を開催した。町田四五點高坂二四點綴一九點で町田が斷然首位を占めた。番外として小供及びオールポイ側でも競泳あり盛會だった。

## 天人會

第五回天人會九月廿四日集會所に於て開催、井上氏の理想境を作るまでと題し

## 秋季大運動會

高坂校では、去る十二日午前七時半から秋季大運動會を舉行した。競技種目八十七回、肉彈三勇士等觀衆を喜ばせた。尙七十歳以上の高齢者を招待優遇した。第一小學校では同十四日舉行之亦盛大であつた。

## 子供講話會

磐炭では十四日午後一時から日日新聞社子供講話會を舉行し、師益谷羊友先生を聘し、昭和館に於て有益なる講話があつた。高坂校五年以上の女生徒、第二第三小學校からは五、六年男女總數千三百余名の入場者あり三時解散した。

## 祝賀會

佐藤高坂仲村第三兩校長が奏任待遇となつたので、金澤助役外關係者一同發起となり、十八日午後五時から内郷館に於て其の祝賀會を催したが、一般有志其他各學校教員等多數列席して頗る盛會であつた。

金參圓 二本松 松間 清明 金五圓 札幌 鈴木 宜 金壹圓 茨城 坪野松爲三郎 金五拾錢 相馬 齋藤 芳清

滿鮮視察一日一信 (其三)

陸軍騎兵少佐 沼田濱之助

六月九日

午前八時ハルビ

の歓迎を受け、特に同縣人各自動車に乗り込み市民見物なす飛行場見學を致候が、重要任務を帯びて去來する我軍用機を眺めつゝ、更に露西亞人町を経て、郊外なる横川、沖兩氏の志士碑に其の英魂を吊ひ、尙其後方小丘にて歩兵第廿九聯隊附中佐の當地附近戦闘の經過を聞き申候。晝食は第十四師團閣下の招待を受け、更に隨意に市中見物なす申候。當地は松花江岸にあり、北滿の富源を控えたる經濟上の中心市場とし、運輸交通の要衝とし、國際都市として北の上海と稱せられ候が人口は約三十一萬の支那人約十一萬のロシア人四千人の日本人二千の外國人、シヤ人股賑なる都に御座候、特にゆたかなるロシア情緒はハルビンの一異彩に御座候。午後八時夜行にて長春に向ふ

六月十日

長春は滿鐵の終點にして、北中東鐵道により約八時間にして、北中東鐵道は吉長鐵道により三時間にして吉林に達するを得べく、中部滿洲第一の經濟都市として特に產物の大集積、冬期に於ける南下北滿貨物の滿鐵線への積替は眞に壯觀を極むる由に候。日本人約一萬居住あり、下車直ちに市の西端にある日本兵營に至り歩兵第四聯隊田中中佐の南嶺及寬城附近戦闘に関する講話あり、後更に自動車にて南嶺の新戦場を吊ひ戦没勇士の靈を慰め申候。小生等北行又南行、此間官民の歡待を深謝するものに候又長春分會にては永沼挺進隊戦蹟なる左記印刷物を此の一行に配

進隊の一大壯舉を永遠に記念せんとするものなり。今や長春は我生命線の版圖内にあり、今日の盛大なる發展を來せる所以を顧みればこれら義烈なる勇士の遠く此地に足跡を印せるがためならんことを滿洲聯合支部に於ては此の心なる小冊子を印刷、一同に配せるものにて更に其の一節に曰く「新開河橋梁左側下に永沼挺進隊騎兵隊の一員田村騎兵中尉戦死の碑が建てられてあり、之は我滿鐵が其終點を長春迄延ばし得たるボーツマ條約の爲に唯一無二の記念すべき地點であります」と

胸中籌策人如間 笑指松花江畔鄉

斯くて一月九日挺進隊は編成地蘇麻堡を出發途中委々に苦戦を嘗め遠く蒙古を迂回して二月十日拉ハ屯に到着、偵察の結果果然新開河鐵道橋を爆破すべく翌二月十一日夜紀元の佳節を卜して、これが決行に着手せり時に微かに我行路を照せし上弦の月全く西に沈み四邊闇として然も暗澹凄風面をかすめて一種凄慘の氣人に逼るの頃突如として敵の監視兵を襲ひ戦ひ數台前後三回に亘る爆破を遂行其目的たる鐵橋の一部を破壊し露軍の背後を脅すを得たり。然しながら此戦闘に於て故騎兵中尉田村馬造全上等兵望月康二兩士は水清き新開河畔に遂に尊き犠牲として香骨を埋む、一丈三尺の大墓標には露文にて「神よ平和を與へよ」と白書し、廻らすに青色の木櫛高さ四尺のものに以てし頗る町疇に其英靈を吊せる様、敵ながら其の美心に感ぜり、明治四十二年六月兩氏が埋骨の地に碑を建立し、以て其の忠烈を後昆に傳へんとす。此の永沼挺

の襲來を顧慮し、上は中將より下尉官に至る一時間交替の珍不寢番を設け候も事なれば眞にコツケイに感ぜられ候。白城子附近にて夜明け、草原より出づる太陽、壯觀例ふるに物なく廣漠たる平野つくるを知らず候途中牛馬羊等數百の放牧群も珍らしく虹橋及昂々溪等の新戦場を吊ひつゝ、正午過ぎ、ハルビに到着仕候。ハルビは人口約七萬中日本人約七百あり、古來黒河に至る驛路に衝り又西は海拉爾東は呼蘭南は伯都訥へ通する交通上の要點なるも、産業的には未だ見る可きものなし、市街の西端に龍沙公園あり園内の望江樓に登れば嫩江の流水を指さすを得べく、此日車中一泊、是にて北滿の視察を終り愈歸途に就き申候。旅行中各地に於て官民の非常なる歡待を受け特に在鮮在滿同胞諸子の御慕力に對しては永遠に忘るるべきを得ざる事、存候、歸路なされば手紙より身が先に云ふ考へか、筆さるるも物憂く、是にて一日一信を終る事仕候。(終)

滿洲より 長春歩兵四ノ五 目黒兵市 炭山空に月澄める頃先生には益々御健勝以て公共事業に御奮闘の事甚遙かに拝察仕候慶賀の至に候予は其後に士氣旺盛軍務に精勵致居候先日は突然に貴村報御送與に接し故郷の有様、に躍如たるものあり厚く御禮申上候然る處予輩の款句にも拘らず貴重なる紙面を汚したるは恐縮の至にて亦前致居候予は只今長春の東方約百里の處敷化町を根據地として西へ東へ警備討伐に出動致居候滿洲國承認は非常に恐ろしき土地として今尙記憶に新なるもの有之候。此地以北は夜濃軍に相成申候。匪賊

内郷村報の

六大使命

一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。

二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。

三、本村共済事業の徹底を期す。

四、村内の善事実行を表彰し、且之を獎勵す。

五、本村で本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。

六、尙餘力を以て、國民指導に當る。

本紙發行は内郷一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

保護を計り、又本年よりは拓殖實習場を新設して中堅人物養成の計畫を立てて居る。之を一瞥するに、

内郷村報

昭和七年十月二十日

本紙發行は内郷一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

保護を計り、又本年よりは拓殖實習場を新設して中堅人物養成の計畫を立てて居る。之を一瞥するに、

るに我北邊の寶庫を、徹底的に開拓する事は、本道として勿論、我國としても當然爲さざるべからざる仕